

本校使用教科書図書の採択理由

弘前大学教育学部附属小学校

教科 採択教科書	採択の理由（内容・表記。配列・分量等・表現等）
国語 光村図書出版 「国語」	<p>古典作品の良さを感じ味わうことができるよう、全ての学年で読み聞かせの場面を設定していたり、防災の意識が高められるよう、復興をテーマにした伝記作品の序に作者の思いを載せている。季節を感じる言葉や詩歌を取り上げたり、説明的な文章の学習の前に短い教材を配したりしているところが良い。また、国語の力を実生活でも生かせるよう、二つの領域を関連づけた学習材を適宜配している。</p> <p>表記の面でも、言語活動のイメージができるように、その説明と挿絵を1ページ内に収めていたり、適宜復習できるよう、3学年以上の巻末にローマ字の表をつけている。</p>
書写 光村図書出版 「書写」	<p>主体的に活動に取り組み、自己の変容を実感することができるために、児童が興味を持って取り組める言語活動が提示されるとともに、目標が焦点化され成就感や達成感を得られるように配慮されている。</p> <p>国語との関連教材では、言語活動に関連付けられた学習が設定されている。日常生活や学校生活に役立つ資料が多数収録されているため、児童が身に付けた書写力を活用する具体的なイメージをもたせやすい。</p>
社会 日本文教出版 「小学社会」	<p>社会的な見方、考え方が身に付けられるよう、問題解決の過程を明示している。また、学習技能を3つの観点に分け段階的に示したり、主体的なまとめができるような手順・方法を示している。人権に関する意識が高められるよう、社会福祉に関する内容が重点的に配列されている。環境や防災、文化に関する教材や青森県のりんごの輸出について取り上げているところも良い。内容が本校の研究と見合ったものになっている。</p> <p>写真や文字の表示の大きさ、重要語句の太字の表記、学習内容に沿ったレイアウトの工夫等の表記の工夫もみられる。また、学習活動に活用できるよう、写し絵や白地図なども添付している。</p>
算数 東京書籍 「新編 新しい算数」	<p>低学年では児童にとって楽しいゲーム等を入れ、興味・関心を持続させながら思考力を高めるような工夫が、高学年では児童が課題を選択でき、多様な学習活動ができるような工夫がなされている。また、基礎基本の定着のために計算練習の機会を増やしていたり、思考力を育成できるように低学年から数直線や図等を用いた指導を系統的に掲載している。また、算数用語や記号の確認ができるように、巻末に索引を掲載している。</p> <p>持ち運びの利便性のために、1～5学年は上下2冊に分かれており、振り返りや確かめができるように6学年は年間1冊にまとめられている。</p>
理科 学校図書 「みんなと学ぶ小学校理科」	<p>実感を伴った理解ができるよう、児童が直接体験する場を多く設けていたり、確認がしやすいよう振り返りの項目の内容が精選され、読み取りやすい工夫がなされている。学年間のつながりや、系統性を意識し構成で、単元毎に発展的な内容が取り入れられている。</p> <p>また、ノートの記述例があり観察・実験のまとめ方が示されていたり、身近な例を示して学習した内容が生活にも活かされるような工夫がなされている。</p>
音楽 教育出版 「小学音楽 音楽のおくりもの」	<p>言語活動の充実のために、観点を明確にした話し合い活動が行われるようになっている。基礎・基本の内容が充実しており、それを活用して活動する構成がよい。また、主要部分・選択部分・資料・発展が明確であるため、実態に即した学習を展開で、各領域のバランスもとれている。</p> <p>表記の面では、ユニバーサルデザインを取り入れカラーで見やすく、楽譜も大きくて見やすい。また、楽器の扱い等も写真が用いられており分かりやすい。また、透明シートや折り込みページがあり、学習内容に則して活用できる。</p>
図工 開隆堂出版 「図画工作」	<p>身近な材料を使って主体的に取り組めるよう、活動のヒントが学年に応じて掲載されている。また造形遊びに関しては、活動をイメージしやすいような題材名の設定がされ、活動の特徴が明確になっている。</p> <p>各学年で選択題材を設定し、学校や地域の実態に応じて活動できるよう配慮されている。</p> <p>造形活動と地域とのつながりについて、地方の文化等を取りあげ紹介している。弘前市のねぶた祭りも掲載され、地域文化と造形活動のつながりについて気付かせ、活動の発展に生かすことができる構成である。</p>

<p>保健体育 東京書籍 「新編 新しいほけん」</p>	<p>本校および本学で推進している「健康教育」で、特に特に保健体育で重点的に取り扱う「生活習慣の改善」「生活習慣病」「飲酒と喫煙の害」等の内容が充実している。また、授業の流れが明確でわかりやすい。 教科書の中に適当な量の記入欄があり、自分の考えをまとめるのに役立ち、言語活動の充実につながる。</p>
<p>家庭科 開隆堂出版 「わたしたちの家庭科」</p>	<p>これまでの自分、これからの自分という視点が成長を自覚できる構成になっている。また、めあて、活動、振り返りが明確である。また、地域の食文化や伝統についても関心をもてる内容となっており、本校の研究に生かしやすい。 4つの分野が色別に記載され、バランスのとれた配列である。また、用具を使用する場面で計量単位を分かりやすく説明していたり、ページ下の解説が設けらたりすることで、理解の助けとなる。</p>
<p>生活科 光村図書出版 「せいかつ」</p>	<p>多様な表現方法が身につくように、図鑑や絵巻物、カルタづくりなど具体的な表現活動が示されている。また、身近な動植物を扱うことで、継続的にかかわることができるような内容になっており、児童の興味関心を引くような写真を掲載している。 配列や構成の面では、児童や地域・学校の実態に合わせて取り組む時期を柔軟に設定できるよう、活動のまとまりのごとの単元構成になっている。また、児童の思考の流れを大切にしたホップ・ステップ・ジャンプの3段階の構成になっており、活動が活発になされ「確かな力」が身につくように工夫されている。</p>